



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「県・村落開発フォーラム全国大会 特集号」

2012年6月4日 (Vol.26)

目次

はじめに ー全国へ「県・村落開発の手引書」普及開始ー

1. フォーラムの表・裏舞台を実況中継

実況中継 1. 発表直後の大喝采

実況中継 2. 大きく成功しています

実況中継 3. 村落開発ハンドブック編集作業から見た“伝道師”候補たち

実況中継 4. フォーラムの舞台裏を支えた本省職員

2. 専門家の一日 ーキーワードは「Cool」ー

3. 大好評のコラム

ごつつあんです、シエラレオネ！第21話 ー潮風と夕陽とシエラレオネの海の恵みー

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>



シエラレオネ



プロジェクト対象県



はじめに ー全国へ「県・村落開発の手引書」普及開始ー

今回のプロジェクトニュースは、「県・村落開発フォーラム全国大会特集号」と題してお届けします。

5月24日に地方自治地域開発省とCDCDプロジェクトが共催し、第2回県・村落開発フォーラム全国大会を開催しました。

同フォーラムは、シエラレオネ全国にある19の市・県議会職員及び議長・市長など160名以上の地方行政関係者を招待し、プロジェクトの成果を伝える、年に一度の大きな節目となる機会です。

この大きな機会の成功のために、通常業務の合間を縫って、プロジェクト専門家、ナショナルスタッフと本省及び県議会職員らが準備作業を続けてきました。

今回で2回目となるフォーラム全国大会では、プロジェクトのカウンターパートによるCDCDプロジェクトの進捗報告に続いて、県・村落開発ハンドブックが参加者に配布されました。同ハンドブックの全国普及の一步を踏み出しました。

県・村落開発ハンドブックは、CDCDプロジェクトの活動から得られた地方行政職員や住民代表者の協働による地元の開発事業のグッドプラクティスをまとめた、地方行政関係者の手引書です。

ハンドブックの内容は、県や市議会を中心とした具体的な開発事業計画の策定の仕方、地方の有力者との協力の仕方、住民の声をすくい上げるために必要な配慮などなど、プロジェクト活動で実証された具体的な業務内容が掲載されていますから、より実務的です。

CDCDプロジェクトの協力でまとめた県・村落開発ハンドブックが、本省からフォーラムにてシエラレオネ全国の地方行政関係者に配布され、全国の参加者からは多くの有益な提言や助言をいただくことも出来ました。

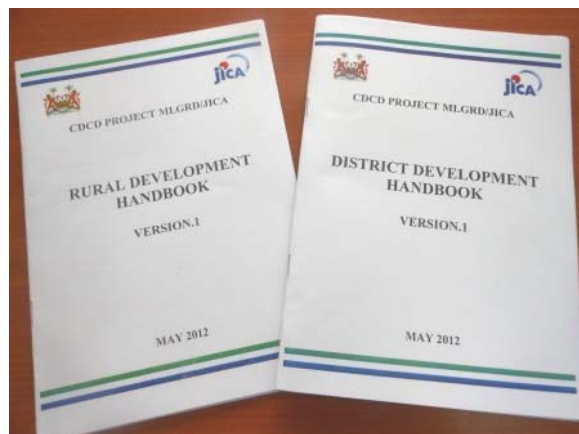


フォーラム冒頭での地方自治地域開発省大臣（写真中央）による挨拶。

大臣右隣は稲村所長(JICAガーナ事務所)



地方行政関係者が指導するコミュニティインフラ整備工事。



プロジェクトで開発・普及支援している県・村落開発ハンドブック

フォーラム翌日には、シエラレオネのテレビ局とラジオ局に呼ばれ、本省副大臣、稲村所長（JICA ガーナ事務所）と共に、生放送の番組に出演しました。JICA の協力事業、CDCD プロジェクト、県・村落開発ハンドブックについて、シエラレオネ全国に広報する絶好の機会となりました。



ラジオ番組に出演。中央が稲村所長、その右が副大臣（写真左）。生放送のテレビ番組に出演したスタジオ（写真右）

さあ、これからはこの県・村落開発ハンドブックが全国の地方行政関係者に大いに活用されるように、本省と共にモニタリングする次のステップに入ります。また、ユーザーである地方行政関係者の声を聞いて、ハンドブックの内容を実情に合わせて改訂する作業支援を続けていきます。

フォーラムの準備は数ヶ月前から始めました。本省職員がまるでプロジェクトスタッフのように動き、また、熱のこもった説明をした県議会職員らの活躍により、充実したフォーラム全国大会は終了しました。フォーラム開催に協力していただいた関係者皆さんには心から感謝申し上げます。

（平林リーダー）

1. フォーラム全国大会の表・裏舞台の実況中継

実況中継 1. 県開発モデル構築・フィーダー道路改修プロジェクト ー発表直後の大喝采ー

いよいよ今年もこの季節がやってきました。プロジェクトの成果をまとめ、他の県議会等と共有するフォーラム全国大会。昨年に引き続き 2 回目ですが、今年はフィーダー道路改修プロジェクトを例として、ここで得た教訓とそれをもとに作成した県開発ハンドブックバージョン 1 のお披露目です。昨年と同様、カウンターパートが発表しましたが、今回は発表者 3 人を実況します。

【発表者 1】ジボ氏（カンビア県議会エンジニア）への大喝采

昨年のフォーラムでは少々上がり気味だったジボ氏。ただ、最近は業務に対しても積極的で、今年の発表ではぜひ成長した姿を見せてもらいたいところでした。

彼の担当は、カンビア県での活動報告。今年はフォーラムの1週間前に、彼から打合せをしようと話してきました。その姿はとても真剣です。本格的に打合せができたのは3日前ですが、練習では内容をしっかり話すことができました。家でも反復練習をしたとのこと。また、彼の課題は舞台でのマイクの使い方です。マイクの持ち手がどうしても遠くなってしまいます。それも、直前に舞台上で練習しました。

本番は、スクリーンに自分の姿を映してしまうこともしばしばありましたが、マイクを注意されたのは1回のみ。内容も滞りなく説明でき、発表が終わった際には、観衆からこの日1番の拍手を受けていました。客席で見ていた私も隣にいた彼の同僚と硬い握手を交わしました。

後日、ジボ氏から「自分の発表がどうだったか、ぜひ日本の皆さんに伝えてほしい」と言われました。よほど満足できたのだと思います。ちゃんと伝えましたよ、ジボ氏。

【発表者2】ハッサン氏（ポルトロコ県議会エンジニア）のフル稼働

ハッサン氏は、フィーダー道路改修プロジェクトのコンセプトを理解し、このプロジェクトの経験をぜひこの国に伝えていきたい、と常々言っています。今回は、ハンドブックの内容を発表してもらう予定でしたが、活動内容を発表する予定だった道路局のエンジニア2人が当日、突如都合がつかなくなり、急きょそちらも担当することになりました。朝の打合せでは、振られた部分についても、「当初からプロジェクトのことは理解しているから問題ない」。頼もしい言葉でした。

発表では、彼の言葉通り、彼が重要と思っている計画策定や維持管理の手法について重点的に説明していました。彼の持ち味はのりの良さなのですが、今回の発表は普通に話していました（別に悪いことではありません）。これは、彼自身がこの発表の重要性を認識し伝える側としての自覚が、そうさせていたのかもしれませんが。

【発表者3】コロマ氏（ポルトロコ県議会副主席行政官）の今後に期待

今回初登場のコロマ氏。彼の担当はハンドブックのコンセプトの発表です。彼は、昨年12月のハンドブックの編纂を始めたところから、積極的に関わっています。ただ、発表となると原稿を棒読みすること



スクリーンに自分の影が映るジボ氏。ご愛嬌です。



フォーラム前にハンドブックの編集をするハッサン氏(左)。マケニ市首席行政官

(右から2人目)も参加。左から2人目はコロマ氏。

が多く、事前の打ち合わせで指摘したところ、「大丈夫、任せておけ。次はうまくやる」とのこと。どこに根拠があるかわかりませんが、信じるしかありません。

当日の朝、観客席の隅にちょこんと座る副主席がいました。後ろからみると大きな体が小さく見えます。話しかけるといつもの通り、「まかせておけ」の一言。ただ、一生懸命資料を読んでいます。直前まで内容や発表の仕方について話をしました。



フィーダー道路改修工事の現場。

さて、発表は、、、。やはり棒読み気味でしたが、過去の発表よりは自分の言葉で伝えようとしているところが分かりました。時間をオーバーしましたが、観客の評判も上々でした。終わった後のほっとした笑顔が印象的でした。これからのハンドブックの普及は彼の活躍にもかかっています。

今回の発表を通じて、そんなに根回しをしなくても、カウンターパート自身で話をまとめることができていることです。プロジェクトを通じて、いろいろ吸収し、考え、表現できるようになっているようで、非常に嬉しいことだと思います。ハッサン氏がよく言っている「是非このプロジェクトの教訓を広めていきたい」、その言葉に可能性を感じます。

宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理担当）

実況中継 2. 研修計画 ー大きく成長していますー

今回から、フォーラムでの活動報告に加わった研修分野は、カンビア・ポートロコ県の人事担当官が発表を行いました。

研修計画の主要なカウンターパートである人事担当官は、県議会職員の管理をする重要なポジションです。カンビア・ポートロコ県ともに、人事担当官は若手で当初は頼りない部分もありましたが、CDCD プロジェクトの支援で研修を受けてから、彼らの能力は大きく成長しています。

フレッシュなふたりのフォーラムでの発表ですが、まずは普段から落ち着きがあり穏やかな人柄のポートロコ県の人事担当官カロコ氏です。事前には、練習している素振りは見られなかったものの、本番ではいつも通りの落ち着いた様子で、県議会の情報共有体制についてプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションは予定していた時間きっかりに終了。フォーラムでの発表が初めてとは思えない安定感のある発表でした。



カロコ氏のプレゼンテーション

続いてカンビア県の人事担当官アブドゥラマーン氏。他県へのスタディツアーに参加し、その学びと実践について発表しました。事前に渡した発表スライドのコピーには、びっしりと発表内容が書き込まれ、発表直前まで入念な練習を繰り返していました。

緊張しているのかと思いきや自分の活動の発表であったため、プレゼンテーションは徐々にヒートアップし、身振り手振りも大きく、熱のこもった発表になりました。

カココ氏、アブドゥラマーン氏とも今回の経験を糧に、引き続き県議会の能力向上のために積極的に活動をしていただきたいと思います。



フォーラムでのグループディスカッションの様子。

反町専門家（研修計画・実施担当）

実況中継 3. 村落開発ハンドブック編集作業から見た“伝道師”候補たち

次週に全国フォーラムを控え、カンビア県議会事務所に県開発及び村落開発ハンドブックの編集作業に従事する、カンビア及びポートロコ両県議会職員の姿がありました。村落開発ハンドブックの作業グループには、ポートロコ県議会から村落開発オフィサー（RDO）が、カンビア県議会からは首席行政官（CA）が選ばれました。

編集作業場所はカンビア県議会の事務所です。カンビア県から 60k m ほどはなれた隣のポートロコ県職員達は午前うちにカンビア県議会事務所に入りました。しかし、突然地方自治地域開発大臣がカンビア議会を訪れ、県議会職員はその対応で忙しくなりました。

作業が始まるまで、隣の県議会に来て 4 時間近く辛抱強く待っている RDO に気を遣って、「ここにいる関係者だけで開始しましょうか。」と薦めたところ、「いいや、この作業の重要な点は、両県議会のコンセンサスの元に作業をすることだから、私はカンビア県 CA を待つ」という返答。頑として首を縦に振らない RDO に彼の真面目さが見てとれます。

RDO は他の県議会職員とは異なり、本省からポートロコ県議会へ派遣されているポストです。彼によると、CDCD プロジェクトを通じて、県議会がコミュニティにより近くなったことを一番喜んでおり、自分もプロジェクトに積極的に関わりたい、と切望しています。実際、先に行われたハンドブック委員会でも、ポートロコ県議会職員の中で最も多く発言をしていました。



現場で行われた施設の維持管理研修の様子

こんな RDO は間違いなく、ポートロコ県議会の有力な村落開発ハンドブックの伝道師候補といえるでしょう。カンビア県にも村落開発ハンドブックの伝道師候補では、と感じる人物を見つけました。

「『村人』という呼び方は相手にとって、いい気がしないから、『コミュニティの人々』にしよう」。こう指摘してくれたのは、カンビア県の副主席行政官（DCA）です。いつもおおらかな雰囲気をかもし出して非常に話しやすい人物である DCA は、常に愚直に業務に対しても取り組もうとする印象の人物です。

先日は、週末にもかかわらず、モデルワードの施工業者から招待されて県議会代表として維持管理研修に出席した、と聞いて驚かされました。まさに CDCD プロジェクトの業務は“県議会の業務”と考えている、という事を言葉だけでなく、行動で示すカウンターパートの一人といえるでしょう。

既に作業は休憩なしで続き午後 8 時ちかく。網戸のない窓から部屋の明かりに向かって入ってくる無数の虫が、パソコンのスクリーンにへばりつくのを辛抱強く取り除きながらの作業に、疲れがピークに達してきました。ようやく終盤に近づき、ハンドブックの検討内容が県議会とコミュニティとの関係についての箇所に入りました。この内容を検討し始めるや否や、「ここが一番好きなところだ」といっそう目を輝かせて作業に熱中していたのが DCA でした。作業に集中できなくなっていた自分が「はっ」とさせられると同時に、村落開発が本当に好きなんだな、と感じ、彼から元気ももらいました。



フォーラムの様子

プロジェクトを通じて業務管理方法やパソコン操作など、個々の能力強化は時間をかければある程度引き上げることができると思いますが、その姿勢や考え方を変えることは容易ではありません。ですから RDO や DCA のように、当初からコミュニティへの熱い思いや、仕事に対する積極的な姿勢を持ち合わせている人物を伝道師候補としていくことは、プロジェクトにとって大きな利点であることは間違いのないと思います。結局彼らが家についたのは夜 9 時を回っていました。県議会の中に確実に伝道師候補がいることを確信させられたハンドブック改訂作業でした。

池上専門家（村落開発担当）

実況中継 4：フォーラムの舞台裏で大活躍 ー頼もしい本省職員ー

今回、160 名以上の参加者を招いて行われた県・村落開発フォーラム全国大会の舞台裏を支えてくれたのは、本省職員の皆さんでした。

彼らはフォーラムの事務局メンバーとして、日々プロジェクトの事務所に来ては、進捗報告や相談に来てくれます。問題のあるときには真剣な表情で相談に訪れます。彼らの主体的な姿勢を見るたびに感動する日々でした。

「プロジェクトニュースで、そんな本省職員皆さんを紹介したい。」と伝えたところ、「是非日本の皆さんに私たちの活動振りを伝えて欲しい。」との力強い返事。カメラを向けると、何度もポーズをとってくれます。自然体でいいのですが。



事務局の雑務をこなしてくれた次官秘書（左、中央）、調達支援担当の調達官（写真右）

フォーラムの準備は数ヶ月前から始まっていました。

フォーラムの企画書作り、議事次第案作りから、招待者のリスト、配布するプロジェクトシャツを一枚一枚折りたたみ、招待者へのレターの宛名書きから電話によるフォロー。招待者は約 160 名です。なかなか骨の折れる仕事です。

フォーラム直前には、会場の手配の確認や椅子やマイク機材の手配、横断幕の取り付け、食事提供業者の見積り合わせから業者選定まで、いろいろな準備があります。



フォーラム会場手配を担当してくれた上級オフィサー

ひとつひとつ皆で相談しては、多くの準備作業を進めていく。彼らは精力的に動いてくれますが、プロジェクトから日ごろの業務に手当ては支払っていませんし、請求もありません。「フォーラムの準備は、本省としての本来業務のひとつだから。」という、ある本省職員の言葉に、胸が熱くなります。

過去に関わったプロジェクトでは、「手当てがないと働かない。」という事態の中で、あの手この手を使うことに時間と労力を費やすことが多々あっただけに、彼らの業務姿勢には感動して止みません。



フォーラム会場受付は大忙し

そんな彼らと一体感を持って、同じ目標に向けて活動することが出来ました。今回のようなイベントを本省と共同で運営することは、カウンターパートとの一体感を強めてくれます。

フォーラムが終わった翌日、事務局メンバーとして活躍した本省職員のみなどと会いました。「また何かあったら手伝うから、声をかけて。」といわれ、また感動です。彼らはまさにプロジェクトにとってのオールスターズです。



フォーラムでは名司会振りを発揮した副次官

平林リーダー

2. 専門家の一日 —キーワードは「Cool」—

初回赴任時には大変「暑い」印象のあったシエラレオネ。今では毎朝、アイスデオドラントを塗り、首掛け式の扇風機を身につけ、充電式卓上小型扇風機をリュックに詰め事務所に向かいます。とにかく「Cool」を維持することに心がけます。

ナショナルスタッフの取りまとめと、彼らを通じてのカウンターパートへの働きかけ。カウンターパートに積極的に動いてもらおうとすればするほど、仕事量は多くなります。動いてでる汗から、冷や汗まであります。

事務所では、作業中に照明が消え、印刷中のコピー機が止まることがあります。プロジェクト事務所が入っている県議会の発電機か配電盤のトラブルのようです。事務所には太陽電池の電力があるのですが、連日の発電機トラブルと埃や曇り空のために蓄電容量は不足気味です。生命線のインターネットが落ちないように、電気の使用を極限まで絞ります。

暑い事務所で熱を帯びたコンピューターと格闘しながら、湿度 90 度を指す乾湿計を見た瞬間に、プロジェクトの事務所の不快指数は最高潮に達します。団扇や扇子は片手が塞がるので、デスクワーク時には不向きです。こんなときは、充電式卓上扇風機がとても役立ちます。隣に座る汗を滝の様に流しているナショナルスタッフにも小さな扇風機を向け、小休止です。少なくとも生活面では、備えあれば憂い無しを実現します。ささやかな「cool」なひと時です。

不思議なもので、忙しいときに限ってトラブルが発生します。カウンターパートのパソコントラブルです。直ったパソコンを見てカウンターパートは大喜びなので「仕事ははかどる」、と期待したのは愚かでした。「やっぱり君は **useful**」という言葉に心の沸点は超えそうになりますが、安易な人助けは自らの立場を危うくすることもあるとの助言を噛み締め、心の「Cool」を保ちます。

工事現場のモニタリングでは、カウンターパートの成長を確認すべくチェックシートを渡して見回ります。帰りの車中で、そのチェックシートが一枚目しか記入されていないのを発見したときは、過度の期待を後悔して愕然となるか、頭に血が上るかですが、暑いシエラでは禁物です。Cool に対応することを心がけます。なぜ、工事点検書や業務指示説明書に請負業者の署名が必要かをナショナルスタッフを通じてカウンターパートに淡々と説明します。シエラで心の健康を保つためには、忍耐強く待ち、でも次を見越して気持ちを切り替える。「cool」な心を持つことが大事なようです。私の専門家としての毎日は、がっつきても立ち直る、そして怒らず耐えるという忍耐力の向上を実感する日々とも言えそうです。



現場で住民に説明するカウンターパート。彼の業務姿勢の向上を見ると、専門家真利につきます。



子供たちの笑顔にはいつも癒されます。

佐藤専門家（村落開発担当）

3. コラム：ごっつあんです！シエラレオネ 第21話 ー潮風と夕陽とシエラレオネの海の恵みー

フリータウンの町中から一番近いビーチ沿いにある「モンタナ」をご紹介します。

週末はレバノン人を中心に、ビーチを眺め、潮風に吹かれながら、お酒を飲み、食事を楽しむ人たちであふれます。

シエラレオネの海の幸がたっぷりとトッピングされたシーフードピザは格別です。

ピザ生地は厚くて、さくさく。シーフードは肉厚で新鮮。焼き立てピザは最高です。

このお店、多くの料理は大皿に出てきます。そのボリューム感もたまりません。

シーフードスパゲティはチーズがたっぷりかかっています。

フィッシュフライはさくさくで、タルタルソースとからめていただくと最高です。

お店の向かいに広がるビーチ。そのビーチに広がるテラス。出来立ての料理を持った店員さんが、道路を渡りテラスまで運んでくれます。

潮風と夕陽と波の音。そして新鮮なシーフード。

シエラレオネに海があつて本当によかった～。



夕陽に映えるボリュームたっぷりのシーフードピザ



フィッシュフライとシーフードスパゲティ



ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★☆。シーブリーズが料理を引き立てる。

次号へ続く

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDCD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、田中専門家（業務調整）、宿谷専門家（道路計画・設計/施工管理）、反町専門家（研修計画）、佐藤専門家（村落開発）、池上専門家（村落開発）：2012年5月実績

